

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立土合中学校)

学校番号 210

【様式】

学校教育目標	日に学び さやかな土合 光る汗
目指す学校像	生徒が通いたい、保護者が通わせたい、職員が働きたい、地域が応援したい学校 ○笑顔あふれる学校 ○あいさつが飛び交う学校 ○行事が魅力的な学校
重点目標	1 well-beingを保障する教育の実現 2 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現 3 子どもたちのエージェンシーをはぐむ学校運営協議会の運営 4 全ての生徒の well-being を保障する教育環境づくりに重点を置いた予算編成と予算の有効活用 5 well-beingの実現に向けた職場環境づくり

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度	目 的 標	年 度 評 価	年 度 評 価	実施日令和8年2月13日				
番号	現状と課題	評価項目	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<p>【現状】</p> <p>○R0 さいたま市学習状況調査では、市の平均より中1では全ての教科で3pt以下で回っている。中2においても、国語、数学では3pt以下で回っていない。</p> <p>○R6 さいたま市学習状況調査の「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定的な回答の割合は、市に比べ10pt程度上回っている。</p> <p>【課題】</p> <p>○教職員のICT活用がまだ十分ではなく、学びの指標のICTに係る数値も市の平均には及んでいない。</p> <p>○教育データの重要性に気付くつつあるが、指導に生かす授業改善を図ることは至っていない。</p>	<p>・学力向上に向けた教職員の指導力向上に関する取組</p>	<p>①全国や市の学習状況調査などのエビデンスを活用し、本校の課題解決のための指導力向上の研修体制の構築。</p> <p>②中学校区の児童のデータを活用し、学力向上カウンセリング学校訪問を実施し、入学前、入学当初に現状把握を行い、授業の工夫改善を図る。</p>	<p>①R7 学校評価保護者アンケート「分かりやすい授業の工夫」の項目における肯定的な回答70%以上を達成できたか。</p>	A	<p>○学力向上に向けた取組より、評価指標の①は80%より目標を大きく上回り、達成することができた。全国学力・学習状況調査結果を分析し授業改善に生かすことや教職員研修の公開講座を11月～2月に実施したことで、指導力向上を図ることができた。</p> <p>○中学校区の児童のデータを活用したことで、学力の現状把握をすることができ、授業計画の改善に役立てることができた。また、小中合同研修会でも土合中学校区小学校教員に現状把握を行うことができた。</p>	<p>○教育データの利活用にはスクールデジタルジョブの活用は欠かせないものである。スクールデジタルジョブの現状の教育データと学習状況調査のデータを合わせ分析することも検討していきたい。</p> <p>○学力向上カウンセリング学校訪問は、中学校区のデータを活用したが、次年度は中3のデータをもとに分析からデータの活用方法へとシフトチェンジをしていきたい。</p>	<p>○学校評価保護者アンケートの「分かりやすい授業の工夫」の数値が89%と大きく増加しているのは大いに評価できる。計画的な研修の成果である。</p> <p>○ICTの活用も進んでいるようである。端末の仕様が変更するようだが、教職員や生徒に不安を与えないように、学校として研修や指導を充実させてほしい。</p>
		<p>・学びの自律化に向けた情報端末の活用・授業改善</p>	<p>①ICT機器を活用した授業公開を実施するとともに、生成AIを活用した研修の実施。</p> <p>②学校DX推進部を中心とした学びの改革を推進するための組織体制の構築。</p>	<p>①学びの指標のICTに係る数値を1回目より2回目より0.2pt上がったか。</p> <p>②家庭におけるICT機器の活用を進め、家庭学習の質の向上に繋げることができたか。</p>	<p>○情報端末の活用に向けた研修や授業公開を通して、評価指標の①は0.22pt向上することができた。学習者用端末の更新に伴い、新たな活用方法も検討している。</p> <p>○研修室の持ち帰り学習を推進できるようにしたことで、デジタル学習の設備やデジタル教材の提供も進め、ICT機器の活用も教職員、生徒にも広げることができた。継続して行うことでさらに学習の質が向上していくと考える。</p>	A	<p>○情報端末の活用は順調に進んでいる。端末の入れ替えに伴い、端末の仕様変更するが、年度当初の研修やDX研修の伝達等、積極的に進め、学びの自律化に向けた授業改善を進めていきたい。</p>	
2	<p>【現状】</p> <p>○R6 学校評価生徒アンケート「わたしは、学校生活が楽しいと感じている」の肯定的な回答の割合は、93%であり概ね良好である。</p> <p>○ステップアップルーム(Sola るーむ)は、54人の生徒が個々の状況に合わせて使用している。</p> <p>【課題】</p> <p>○多様な生徒がいる中、担任や学年で抱え込んでしまい、学校全体で組織的に動くことに課題が残る。</p> <p>○ステップアップルーム(Sola るーむ)を利用している生徒が多いため、一人ひとりに応じた学習環境の整備に課題がある。</p>	<p>・危機管理の徹底と初期対応をスピーディーで組織的な対応</p>	<p>①「勤務に当たっての基本姿勢」を作成し、毎月チェックシートをもとにセルフチェックをする。</p> <p>②「ほめて育てる」(認め、励まし、支える)声掛け、指導・助言の在り方を全教職員で共有し、実践する。</p>	<p>①N7 学校評価生徒アンケート「わたしは、学校生活が楽しいと感じている」の「全くその通りだと思う」の回答60%以上を達成できたか。</p> <p>②生徒が安全安心に過ごすことができたか。</p>	A	<p>○朝晩に当たっての基本姿勢をもとに教職員一人ひとりが教育公務員としての自覚を持ち業務に当たることができた。その結果、評価指標①は60%目標を達成することができた。</p> <p>○組織的に対応できる業務を定め、教職員の意識が変化してきた。その結果、生徒たちが「学校が楽しい」と感じ、安全安心に学校生活を送ることができた。</p>	<p>○「学校生活が楽しいと感じている」に「全くその通り」と答えている生徒が65%いることは、生徒一人ひとりに寄り添った指導の成果である。</p> <p>○多様な生徒がいる中、生徒の人権意識の向上も学校教育の重要な部分である。</p> <p>○学校に来ることができない生徒を取り残すことがないようにしたい。</p>	
		<p>・個々の生徒・保護者の思いを受け止め寄り添い、誠実に対応する支援体制の実働</p>	<p>①ステップアップルーム(Sola るーむ)でのオンラインを含めた効果的な学習方法の検討や時間割に位置付けた個別指導の実施</p> <p>②生徒指導・いじめ対策委員会、教育相談・特別支援教育部会を毎週開催し、状況把握を丁寧に行い、迅速かつ丁寧に組織で対応する。</p>	<p>①ステップアップルーム(Sola るーむ)の学習環境の充実を図り、運用方法の見直しを随時行うことができたか。</p> <p>②学校評価(教職員)の生徒指導・教育相談の体制にかかる質問項目において、3.0以上を達成できたか。</p>	<p>○ステップアップルーム(Sola るーむ)の利用者は多く、学校内の階層別や学年別の大きな役割を果している。オンラインを含めた学習方法の活用や時間割の見直しも進んでいる。</p> <p>○生徒指導、教育相談と部会を連携しての体制づくりに関する項目ではそれぞれ3.0と目標を達成することができた。その結果、事業や部会との連携に対し、迅速かつ丁寧に組織的な対応をすることができた。</p>	A	<p>○生徒一人ひとりに寄り添った指導が必要である。その際、学校の組織力をさらに向上させ迅速な対応ができるようにしていきたい。</p> <p>○中堅教員を中心に危機管理の意識も高くなってきた。次年度は、その意識を学校全体に広げるための研修も積極的に進めていきたい。</p>	
3	<p>【現状】</p> <p>○PTAと連携し情報発信アプリを活用して効果的に学校からの情報を発信している。</p> <p>○学校運営協議会において保護者、地域と連携し、目指す生徒像の実現に向けて積極的な熟議を重ねた。地域も協力的であり、学校との連携は図れている。</p> <p>【課題】</p> <p>○学校HPには保護者への通知文やお知らせが不十分のため、内容を充実させ、より積極的・早期に学校の取組を発信することに課題がある。</p> <p>○計画的な学校運営協議会への生徒の参加が実施できておらず、地域と生徒が意見交換をする場を作る必要がある。</p>	<p>・開かれた学校づくりに関する取組</p>	<p>①学校ホームページに、学校運営協議会の情報を発信するページを作成し「目指す生徒の姿」を広く共有できるようにする。</p> <p>②学校公開週間を設定し、地域の方に教育活動を見ていただく、学校の教育活動や生徒の成長に係る関心を高める。</p>	<p>①保護者への学校評価アンケート「積極的な情報発信」の項目における肯定的な回答95%以上を達成できたか。</p> <p>②毎学期の学校公開や学校公開週間の実施ができたか。</p>	A	<p>○様々な場面で保護者・地域に情報を発信することができた。その結果、評価指標①は95%と目標を達成することができた。学校ホームページの更新も積極し、定期的に実施することができた。学校運営協議会へ関しては、議事録の共有はできているが、保護者へ広く共有することができなかった。</p> <p>○今年度は、学校公開週を2・3学期に設けたが、保護者の都合に合わせて実施できたようである。実施方法については今後検討していく必要がある。</p>	<p>○次年度本格運用の保護者へのお便り配信ツールを効果的に活用し、迅速な情報発信を進めていきたい。</p> <p>また、学校運営協議会の委員の方にも配信できるように準備していきたい。</p> <p>○次年度も学校公開日や学校公開週間に適切に設け、幅広い方に本校の教育活動をご覧いただけるようにしていきたい。また、行事等も積極的に公開できるようにしていきたい。</p>	
		<p>・学校運営協議会を基盤とし家庭、地域と連携を密にした特色ある学校づくりに関する取組</p>	<p>①学校運営協議会を年3回実施し、学校の状況を積極的に発信するとともに学校自己評価システムを活用してPDCAサイクルのもと家庭、地域と連携した取組を実施する。</p> <p>②学校運営協議会に生徒が参加する場を設定し、地域、保護者、教師、生徒が熟議を行えるようにする。</p>	<p>①学校運営協議会の熟議で決定したことを実践できたか。</p> <p>②学校運営協議会に生徒が参加する場を設定することができたか。</p>	<p>○学校運営協議会の協議で決まっていたことが、最終的に決まらずに消滅したままになっている。土合中学校の基本方針に対して共有することができた。土合の実態に合わせて進めていく。</p> <p>○年2回中学校運営協議会にて、生徒が参加し、生徒のプレゼンをもとに意見交換を行うこととした。委員の方にも意見を聞きながら、生徒の提案が承認されたことは大きな一歩であると考えた。意見交換や協議の開催に課題として残った。</p>	A	<p>○学校部活動地域展開のモデル校として、次年度は今年度の課題をもとに、上合中学校に合った体制づくりを行ってきたい。</p> <p>○次年度も引き続き生徒が参加できる学校運営協議会を進めていき、様々な意見交換や協議ができる時間の確保をしていきたい。</p>	
4	<p>【現状】</p> <p>○施設の老朽化が目立ち、優先順位を付けて修繕を行っているが追い付かない現状がある。</p> <p>○大規模校であり、計画的な予算執行を行っているが、予算が一旦迫している現状がある。</p> <p>【課題】</p> <p>○学校配当予算で賄いきれない施設・設備があるため、業務に支障をきたしている。</p> <p>○授業等で使用している消耗品・備品も年数に伴い不具合があるため計画的な買換えが必要である。</p>	<p>・施設・設備点検や修繕を通じた事故防止対策に関する取組</p>	<p>①全教職員による毎月の安全点検に加え、管理職による目視による点検の実施。</p> <p>②修繕箇所の日目対応並びに教育委員会とも連携を図り安全な環境づくりを行う。</p>	<p>①学校評価(教職員)「毎月の安全点検が確実に実施され、必要に応じた対応が施されているか」の項目において、肯定的な回答の割合が80%以上を達成できたか。</p> <p>②修繕箇所の即日対応を行うことができたか。</p>	A	<p>○安全点検点検と連携し、スムーズに行うことができた。評価指標①は80%より目標を達成することができた。安全確認が徹底できない修繕箇所も明らかになったため、点検項目や方法も検討していく必要がある。</p> <p>○校内内外の老朽化に伴い、修繕箇所が数多くあったが、予算が対応する範囲、教育委員会と連携する箇所などを踏まえたが修繕することができた。</p>	<p>○今年度は安全点検を分室に位置付け、スムーズに業務が進んだため、次年度も引き続き進めていきたい。また、安全点検の項目も見直しを図り、施設・設備の点検の重要性を高められるようにしていきたい。</p> <p>○修繕箇所の確認から、修繕の完了まで、どうしても時間を要するため、その間の代替等を考えていく必要がある。</p>	
		<p>・適正かつ確実な予算執行に関する取組</p>	<p>①個別最適な学びの実現に重点を置いた予算編成の実施。</p> <p>②事務と連携した予算執行率の確認や執行内容についてのヒアリングの実施。</p>	<p>①適正かつ確実な予算執行の執行率を97%以上としたか。</p> <p>②計画的な予算執行を行うことができたか。</p>	<p>○事務と連携を図り、必要な箇所を必要とする範囲に、予算執行率は97%を超える見込みである。老朽化にも対応できる見直しもあつたが、詳細計画に予算執行が滞っている。</p> <p>○今年度は、備品等の廃棄も計画的に進められており、各教科、部活動での取組も進んでおり、年度末に廃棄を行い、買い替え等にも対応できるように準備をしている。</p>	B	<p>○「生財の健全第一」に必要な箇所は必要かつ予算がけがたが、計画的に準備していきたい。</p> <p>○今年度同様、備品等の廃棄を計画的に進め、教育環境の整備に努めていきたい。</p>	
5	<p>【現状】</p> <p>○主任を中心に教職員間でコミュニケーションは密にとっているが報告・相談の遅れから、家庭から不安の声が懸かる場面が見られる。</p> <p>○年休等の休暇の取得も計画的に行うことができる教職員が多い。</p> <p>【課題】</p> <p>○ベテラン教員による若手教員への指導、支援が少なく、若手教員の業務圧迫によって心身に影響を与える場面がある。</p> <p>○時間外在校時間の個々の差が大きい現状がある。</p>	<p>・一人ひとりを大切にすることを職場環境づくり</p>	<p>①事業発生時には柔軟な成員によるケース会議を実施するなど、組織で対応できるようにする。</p> <p>②教職員の提案に対して管理職や主任からその場で評価することで自信と意欲を持たせる。</p>	<p>①明るく活力ある職場を実現することができたか。</p> <p>②管理職等による若手教員への面談を実施し、業務把握を行うことができたか。</p>	A	<p>○教職員も多くなり、様々な年代、考え方があがる。教職員とのコミュニケーションを密に取ら、特に主任として管理職と学年主任が入ることになった。次年度はより一層、教職員一人ひとりに目を向けて、個別の対応を講ずる必要がある。</p> <p>○ベテラン教員と若手教員との連携を促進して、若手教員への指導や業務把握を行うことができた。また、文書等の提案を通して確かな取組が評価できることでも自信と意欲を持たせることができた。</p>	<p>○経緯の長い教員への丁寧な指導・助言はもとより、中堅教員への指導・助言を次年度も進めていき、リーダーとしての自覚を促していきたい。また、学年主任を適し、横の連携の重要性を再確認することで、組織力を上げていく。</p> <p>○時間外在校時間の均等化を図るために、次年度は1人1人分業を原則に授業分業の制り振りを行ってきたい。</p> <p>○保護者へのお便り配信ツールを教職員同士での連絡ツールとしても活用し、教育DXをさらに進めていきたい。</p>	
		<p>・ICTを活用した業務効率化を図る取組</p>	<p>①時間外在校時間の見える化を行い、個々の時間を確認するとともに、実態に応じて個別に指導する。</p> <p>②学校DX推進部を中心にICTを活用した業務改善の方法を検討する。</p>	<p>①時間外在校時間毎月45時間を超える職員の人数を16より減らすことができたか。</p> <p>②ICTを活用した業務改善を行うことができたか。</p>	<p>○評価指標①は11月現在、80%の約半分の人数となっており、目標達成の見込みである。しかし、約半数が大きいため、分業の均等化を図り、異なる時間外在校時間の減少を図っていく。</p> <p>○DXの活用も進んでおり、年度末に廃棄を行い、買い替え等にも対応できるように準備されている。業務改善を行うことができた。より良い活用方法も検討していく。</p>	A	<p>○組織にとって横の連携は必要不可欠である。管理職のリーダーシップのもと組織力をより一層高めてもらいたい。</p> <p>○教職員によって業務量が異なるのは仕方ない部分だろうが、役割の均等化等、業務量も均等にできる取組があるとよい。</p>	

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心身のサポートに関する取組

地域とともに関わる取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組